魅惑の舞台鑑賞

小樽市医師会
消化器科・内科髙橋医院　髙橋（たかはし）　達（とおる）

元々演劇にさほど興味があったわけではありません。妻が以前から芝居好きだったので、子育ても一段落して一緒に観に行くようになったのが舞台鑑賞の始まりです。東京の舞台が札幌で観られる機会を妻がまめにチェックしてくれて、一緒に観に行くようになりました。そしておそらく、舞台の素晴らしさを初めて感じたのは10年以上前に観た「万獣こわい」という舞台です。宮藤官九郎さん作のシュールでグロテスクな内容の舞台でしたが、俳優さんたちのテレビで見るのとは異なる迫力に圧倒されました。特に当時は元グラビアアイドルくらいにしか思っていなかった小池栄子さんの吹っ切れたような演技と、当時まだ20歳そこそこだった夏帆さんの鬼気迫る豹変ぶりにひどく感動したことを覚えています。

さらに舞台鑑賞の魅力を決定づけたのがコロナ禍の前、2019年に上演された「海辺のカフカ」でした。村上春樹さんの有名な原作を蜷川幸雄さんが演出した舞台です。（当時すでに蜷川幸雄さんは亡くなっていましたが。）アクリル製の箱にセットが入っていてそれが場面ごとに移動して入れ替わる、まるで本のページをめくるような演出になっていて、原作の世界観を見事に再現した素晴らしい舞台でした。しかも幸運にも前から3列目という絶好の位置で鑑賞することができ、俳優さんの細かい表情も見ることができました。本当に終始舞台にくぎ付け。あまりの感動に観ている間ずっと鳥肌が治まりませんでした。あれほどの舞台にその後は出会っていません。現時点での暫定一位です。

札幌でもいろいろ舞台は観ることはできますが、東京は魅力的な舞台が常に多数上演されています。舞台を観るために何度か東京にも行きましたが、天候不良で帰って来られなくなったら診療に穴をあけてしまいます。せっかく頑張って行く予定にしていても、台風の接近で泣く泣くドタキャンという憂き目も経験しました。

そして2020年からはコロナ禍となり、舞台鑑賞もなかなか難しい状態になりました。観に行きたい舞台があっても、感染状況が悪化したりして、思い通りに観に行くことができず、とてもストレスを感じていました。でも舞台というのは会場で観るのとテレビ画面で見るのとは全く異なるものです。感染状況を見ながらですが、数は少ないながらどうしても観たい舞台は観に行きました。舞台はそもそも音楽ライブやスポーツ観戦と違い、声を出すことはありませんから。

2022年、コロナ禍真っただ中の頃に上演された「千と千尋の神隠し」の札幌公演は２回観に行ってしまいました。出演者のコロナ感染でキャストが土壇場で次々に変更になり、公演自体綱渡りだったと思いますが、本当に素晴らしい舞台でした。そして、こんな時期でも出演者たちがお互いに助け合いながらなんとか公演を続けていることにもとても感銘を受けました。

今は新型コロナウイルスも5類になって普通に舞台鑑賞もできるようになりました。札幌でもコロナ禍のころとは比べ物にならないほどいろいろな舞台が上演されます。でも今はなかなかチケットが取れないのが悩みです。舞台というコンテンツの人気がとても高いのだと今更ながらに感じます。

先日、「岸辺のアルバム」の舞台を観に行ってきました。山田太一さん作の約50年前にテレビ放送されたドラマの舞台版です。会場は今まで経験した中で一番こじんまりとした広さでした。客席数は200にも満たないくらいでしょうか。コの字型に並べられた客席の間も通路のような舞台の一部になっていました。俳優さんが客席と段差がないその通路を歩いて行ったり、目の前で会話したりするのです。こんな近くで観ていいのかという距離感でした。しかも、またしても幸運にも今回は最前列。自分の目と鼻の先の位置で、杉本哲太さんと細田佳央太さんが口論を始めたときには思わず立ち上がって仲裁に入りたいほどでした。自分が舞台の世界に入り込むような感覚。これだから舞台鑑賞はやめられません。

これからもいろいろな舞台に行ってみたい。日常で味わえない感動を味わいたい。鳥肌が立つようなすごい舞台に出会いたい。魅惑の舞台鑑賞の世界はこれからも広がっていきます。